川崎市育成会手をむすぶ親の会　幸支部

幸通信No.27

発行日　令和２年８月１日

新型コロナウイルスの感染防止の対策を取りながら、さまざまな活動が始まっていますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。地域によっては、感染者数が多数出ているところもあるようです。気を緩めることなく、引き続き体調管理をしていきましょう。　（幸支部役員一同）

新しい短期入所事業所について

令和に入ってから開設された短期入所事業所（ショートステイ）を二箇所ご紹介します。皆で、どんどん活用していきましょう。

「ひらま」令和２年４月開設

①名称　社会福祉法人ともかわさき　なかはら障害福祉施設　短期入所事業所ひらま
②所在地　中原区上平間１５６４番地１２
③電話番号　０４４－５４０－０９０７
④利用定員　１２名（男女各６部屋ずつ、全居室個室）
⑤利用日　木～土曜日（祝日を含む、最大２泊３日）　※当面の間
⑥来退所時間　来所時間－午後１５：００　退所時間－午後１６：００まで　※送迎なし

【交通アクセス】
南武線「鹿島田駅」より徒歩約１０分
東急バス川３１系統「鹿島田」停留所から約３分

【申込について】
①申込方法　電話のみ
②受付期間　毎月１日から１０日まで翌々月分まで受付
例）８/１～８/１０⇒１０月分まで受付可能
一次受付期間　毎月１日～１０日　平日　９：００～１６：００
※先着順ではなく、１０日までの受付分を調整します。
二次受付期間　毎月１１日以降は、空きがあれば相談に応じます
③返答　調整でき次第（遅くとも利用希望期間の２週間前まで）

【受付時にお伺いする内容】
①利用希望日程（第１～第３希望まで）　②利用する理由　③返答希望時間と連絡先

また、「なかはら障害者福祉施設」には、中原区の地域拠点施設という位置づけがあり、他にも様々な福祉サービス事業所が併設されています。その中の１つ「日中一時支援」を簡単にご紹介させていただきます。

【日中一時支援】

①名称　　日中一時支援事業所　ひらま

②営業日　　月～金　１３時～１９時　（土・日・祝日・年末年始休み）

③利用地域　中原区・幸区

④送迎　　あり　例）通所施設を利用後、送迎で１５：３０「ひらま」に到着
　　１９：００より自宅に送迎

⑤問合せ先　０４４－５４０－０９０５

※利用には、契約が必要です。

――　「桜の丘」令和元年９月開設　――

①名称　　社会福祉法人白山福祉会　障害ショートステイ桜の丘

②所在地　　中原区井田３－１６－１

③電話番号　　０４４－９４８－６３５０　メール sss.sakuranooka@hakusan-fukushikai.com

④利用定員　　１２名（全居室個室）

⑤利用日　　月～日曜日（祝日を含む、最大２泊３日）

⑥来退所時間　特に決めてなく、利用者の都合により対応可能（応相談）

※送迎があり、基本的に自宅から桜の丘への送迎だが、通所施設からの送迎にも対応

※送迎の希望に添えないこともあるが、家族送迎の場合は時間にも柔軟に対応

※２泊３日の場合、２日目は１日中桜の丘で過ごします。

【申込について】

①申込方法　　・FAX　０４４－９４８－６３５１

・ショートメール　０７０－７４６８－６９３７（直通の携帯番号）

・上記メールあてにＥメール　　・上記住所に郵送

②受付期間　　毎月１日から中旬頃まで　２カ月先の予約を開始

例）８/1～中旬 ⇒１０/１６～１１/１５の期間分受付

※先着順ではなく調整します。

※空きがあれば予約可能　　受付担当：増山さん

③返答　　２カ月後の５日頃確定、お電話か封書にて連絡

※上記の例では１０月５日頃ですが、現在はそれ以前に担当より連絡

【受付時にお伺いする内容】

桜の丘専用の申込用紙に、①利用希望日程②送迎先③送迎希望時間などを記入

※調整の段階で川崎区と麻生区の利用者が重なるなど、送迎の関係で希望に添えない場合には時間をずらしたり、家族送迎の対応をお願いしたりして調整しています。

★「桜の丘」の利用状況（７月８日現在）

職員が８名になり、ショートステイ専任の常勤看護師１名も加わり、金土日については、最大人数８名の受け入れをしています。平日は３～４名程度。金土日と祝日は混んでいますが、家族送迎であれば受入が可能な場合もあります。また、平日は比較的余裕があり、複数回の利

用をしている方もいらっしゃるそうで、契約の登録がまだ少ない今は、かなりこちらの要望にも柔軟に応えていただける印象でした。

緊急の場合も、お気軽にご相談くださいとの、心強いお話をいただきました。

【交通アクセス】

東急東横線「日吉駅」から

東急バス　日 23「さくらが丘」行「さくらが丘」停留所下車徒歩 5 分

JR 南武線「武蔵小杉駅（東口）」市営バス　杉 01～03

・杉 01「総合リハビリテーションセンター」下車

・杉 02「中原老人福祉センター」下車

◇両事業所とも、内容変更されることもあります。契約や申込時に、確認をお願いいたします。

◇桜の丘は夜勤帯必ず常駐の看護師がおります。

「津久井やまゆり園事件」から考えること

未だに信じられない残虐な事件も３月に判決が出され、裁判での決着をみました。けれど、なんだか気持ちがすっきりしないのは私だけではないと思います。５月１８日には、神奈川県議会厚生常任委員会令和 2 年第 2 回定例会活動報告として、神奈川県福祉子どもみらい局から「**津久井やまゆり園利用者支援検証委員会**中間報告書」の提出があったそうです。この検証委員会は、昨年の１１月に施設職員による入所者への不適切な対応があったとの情報提供を受け、専門的な検証が必要と、今年１月に設置されたものです。けれども、当該施設は、虐待について一部は認めたものの他の事案については「致し方ない処遇」といった見解のようです。とはいえ、判決文には当該施設での勤務経験がこの事件の基礎となった旨が書かれているとのことです。

虐待という行為は、特に、知的障害や発達障害を持つ人を支援するときに起こりがちのように感じます。それは、「どうせこんな難しいことは理解できない」とか、障害特性を知らず、「訳のわからない行動をとっている」とかといった支援する側だけの価値観で障害のある人を評価してしまうことが往々にしてあるからです。本人の視点や本人の価値観を理解した上で本人を見ようとせず、支援する側の価値観を押しつけた結果、本人の気持ちをかき乱し、パニックを起こさせ、それを抑えるために長時間の閉じ込めや身体拘束といった行為、すなわち虐待をしてしまうという悲しい現実がまだまだ存在しているように思えます。

二度とこのような事件を起こさないために碑がたてられるとのことですが、そのためには、支援とは何か、どうすれば優生というような感覚を持たない社会を作れるのか、考え続けていかなければならないと思います。　（仁尾　智都子）

【追記】

この事件について、（一社）全国手をつなぐ育成会連合会は、他の障害者団体とともに次の要望を神奈川県知事宛に提出しています。

「障害者支援施設における利用者目線の支援推進検討部会の設置についての要望書」６月２４日

「津久井やまゆり園等における虐待が色濃く疑われる事案への対応について」　　７月　３日

【事件の概要　神奈川県ホームページより】

https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/846337.pdf

幸のほっと♥スポット　File２２　川崎のバス!!

今回は、一番身近な公共の乗り物、バスの紹介です。私が超田舎出身のせいかもしれませんが、川崎はすごくバスが充実していて便利ですね。行こうと思えばバスだけ乗って川崎の端から端まで行けるのではないかと思います。

ノルフィンとキティのラッピングバス

幸区を走っているのは、川崎市バスと川崎鶴見臨港バス、東急バスです。(横浜市営バスも運行していますが、ほんの少しなので省略させていただきます)

市バスは、昭和 25（1950）年に営業を開始し、今年で 70 周年を迎えます。市バス 70 周年記念事業として、いろいろな企画をしていますが、中でも川崎市バスのイメージキャラクターのノルフィンとハローキティのコラボラッピングバスはひときわ目を引きます。コラボは 5 種類あり車内もいろいろなイラストが飾られています。つり革もキティとノルフィンカラーで、しかも、一部のバスは車内の音声案内がキティの声なのです。正直、最初に「お降りの方は…」と、かん高いキティちゃんボイスを車内で聞いたときは「なにごと⁉」と驚きましたが、よく見てみるとコラボバスのフロント中央のマークがキティのリボンだったり、回送車両の行先表示にキティの顔があったり、なかなか徹底しています。また、かわさきスポーツパートナーである男子プロバスケットの「川崎ブレイブサンダース」の前身となる同好会が、同じ昭和 25 年に活動を開始したということで、「同級生コラボ」と銘打ったラッピングバスを運行しています。

続いて、東急バスのお薦めラッピングは「川崎フロンターレバス」です。フロンターレカラーの青と黒のバスはひと際クールですね。川崎駅、あるいは武蔵小杉駅と市民ミュージアムを運行しているのをよく見かけますが、このバスで試合を見に行くのはさぞやテンションのあがることでしょうね。

最後は、川崎鶴見臨港バスです。こちらは、2017 年 11 月 18 日に創立 80 周年を迎えたそうです。その記念事業の一つに、沿線の地域活性化の取り組みの一環として「夢見ヶ崎動物公園応援バス」を運行開始しました。実は、私も偶然何度か乗ったことがあります。これはまた、キティと違う意味ですごいです。車体にも動物のシルエットがたくさん描かれていますが、バスに乗ると、動物公園で飼育されている動物のぬいぐるみが、つり革にぶらさがっていたり、荷だなに座っていたり、やはり「なにごと⁉」と思ってしまいました。最近お見掛けしなかったのですが、営業所に問い合わせたところ現在も運行しているとのことでした。また、臨港バスは、ミドリムシで有名な株式会社ユーグレナと協力して、次世代バイオディーゼル燃料『ユーグレナバイオディーゼル燃料』の使用を開始しているそうです。走行しているのはまだ横浜のみですが、子どもたちの未来のためにも、川崎にも広がって欲しいものです。

新型コロナウイルスの影響で、バスに乗るのはまだ不安だという方も多いと思います。未だ先の見えない状況ではありますが、それでも、明けない夜はないと信じます。(高山　君子)